

令和6年度 自己評価表

鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校

中長期目標 (学校ビジョン)	聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。 ⇒ (めざす子ども像) 【知】学び合う子 【徳】かなえる子 【体】やりぬく子	今年度の基本方針 1 一人一人のきこえに応じた学びの充実 2 子どもたちが主役となり「わかる」「たのしい」と感じる授業・保育づくり 3 自分のきこえを知る～自立活動の充実 毎日 帯で～ 4 自分のよさを知り、のびす、夢に向かう取り組みの推進 5 からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活に位置づける ★ 子どもと向き合う時間を充実するための業務改善★
-------------------	--	--

評価基準	A: 十分達成81～100%	B: 概ね達成61～80%	C: 変化の兆し41～60%⇒経過を分析し、改善方を検討
	D: まだ不十分31～40%⇒改善が必要	E: 目標や方策の見直し30%以下	

評価項目	評価の 具体項目	年 度 当 初		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策
1 社会で生き抜く力を身につける	い②① と一子一 感ども一 授た人の 業者きこ ・保えに 育たに づこ くり 「わ か る 」 の 充 実 「 だ の し 」	幼稚園部 ・友達を誘って、一緒に遊ぶことを楽しむ姿が見られるようになってきた。 ・「伝えたい」気持ちは高まってきたが、「わかりたい」気持ちは、不十分である。	・「できた」「楽しかった」と達成感を感じ、友達とやりとりしながら、楽しく遊んでいる。 ・「伝えたい」「わかりたい」という気持ちを持って楽しいやりとりをしている。	・友達とのかかわりを楽しむ場や遊びを設定する。 ・関わりや友達を意識するやりとりを促す支援について共通理解を図る。 ・手がかり(写真、絵日記等)をもとに、経験を言語化する活動を続けたり、拡充模倣を意識した丁寧な関わりをしたりする。
		小学部 ・個に応じた指導・支援の工夫に取り組んでいるが、教室環境整備、ICT活用については十分ではない。 ・児童の実態や発達段階には幅がある。	・児童一人一人がわかった、できたと感じる授業づくりを行っている。	・めあての提示、話型の活用、めあてを意識した振り返り等を実践した「わかる・できる・たのしい」授業づくりを進めていく。 ・ICT機器の活用、板書の工夫、教室掲示等を含めた視覚的支援を充実する。
		教育研究・自立活動部 ・幼児児童が積極的にコミュニケーションをしようとする気持ちが育ってきている。その反面、伝え方の表現が曖昧なことがあり、分かり合うという面では不十分である。 ・一人一研究授業等の取組で授業力の改善につながっているが、聴覚障がい教育の専門性の維持・継承、複数の障がいを合わせ有する子どもへの指導・支援などが課題である。	・「伝えたい」「わかりたい」という意欲を持って、手話や自分なりのことばで積極的にやりとりをし、積極的に自分から思いを伝えたり、相手を理解しようとしていたりしている。 ・聴覚障がい教育の基本的な知識や指導方法を身につけ、自立活動指導プログラムを活用しながら幼児児童の実態や課題に応じて適切な指導・支援を行っている。	・各学部で幼児児童が「伝えられた喜び」、相手の話が「わかった喜び」が味わえるような環境設定や、ことばの概念を育てていく意図的なかかわりを大切に取り組んでいく。(話型、絵カード、掲示等の言語環境、手話等) ・教職員の専門性の維持、継承、指導力を高めるために、取り組みを進めていく。(自立活動指導プログラムの活用、職員研修の充実、一人一研究授業、参観ウィーク、鳥聾・ひまわりスタンダードのチェック等)
		情報教育部 ・幼児・児童の学びが深まるよう、各教師が授業において、タブレット端末やスライドショー等のアプリケーションを有効に活用する機会は増えつつある。ただ、授業において効果的に使い、授業を行う場面は増えているものの、個々の教員による実践には幅がある。ICT支援員による研修が実践に生かされていなかったり、共有できていなかったりする現状がある。	・ICT研修を受け、それを教科指導や校務分掌業務に生かすことができる。	・ICTを活用した授業を行う教職員のスキルが向上するよう、定期的に研修する機会をつくる。ICT支援員を活用した教職員研修、またプログラミング教育につながる研修の機会を設定する。
2 こうなりたい自分・夢をもつ	④③ 自 分 の よ き こ え を 知 る 、 自 立 活 動 に 充 実 す る 毎 日 組 み 帯 で の 推 進	幼稚園部 ・補聴器や人工内耳の装着や点検等を自分でできるようになってきている。 ・自分のきこえについての自己理解は、これから理解を深めていく必要がある。	・人工内耳や補聴器は自分のきこえを助ける大事なものであることを理解し、身の回りの人に伝えていく。 ・自分のよいところ・好きなところ・得意なことなどを知り、やりたいこと等の興味関心を広げている。	・補聴器や人工内耳の役割や大切な扱い方について話し合う活動を設定する。 ・友達のよいところや自分の好きなこと等を伝え合う活動を設定する。
		小学部 ・友達や他者と関わることを楽しみ、意欲的に活動しているが、自信のない活動には消極的になったり思いを伝えられなかったりすることがある。 ・相手にわかるように伝える、わかろうと思っていき意識が十分に高まっていない。 ・きき違えたり、あいまいに覚えたりしていることばがある。	・自分の良いところを見つけ、自信を持って日々の活動に取り組んでいる。 ・自分には、きき違えたりきき漏らしたりしていることがあることを意識し、確認したり覚え直そうとしていたりしている。	・達成感を味わったり、自他のよさに気づいたりできるように、児童の制作物に感想を書いたり、がんばりを紹介したりする機会を設定する。 ・できたこと、良かったことに対しては常に賞賛し、児童の自己肯定感を高める。 ・「わかる」経験を積めるように、話の内容を確認したり、ことばを指文字等で確認したりする。 ・児童の思いを受け止め、じっくり対話をする時間を設定する。
		支援部 ・話すことや話し方・発音に自信がない、またはことばが分からないなどの理由で、黙ってしまったり自分の思いとは違うことを言ってしまう様子が見られることがある。 ・同じ思いを持つ仲間同士、またその支援者にとって、情報交換や学習する場が不足している。	・躊躇せずに話そうとし、意欲的に「伝えること」を楽しんでいる。 ・情報交換や学習する場を設定すること等で、関わりがつながり、ひろがっている。	・子ども、保護者、その支援者の立場に立った指導や支援を工夫する。 ・手話学習会や難聴学級情報交換会、各種研修会、また連絡帳などを通して安心感のある環境と関係づくりへの土台を作る。 ・人との関わりを広げ、情報交換や知識・経験の習得につながるよう、わくわく交流会(西部地区きこえにくい子どもの交流会)、手話学習会、難聴学級情報交換会、学習・相談でのグループ活動や発表などの場を設定する。
		キャリア教育部 ・校内掲示やキャリア教育だよりで、最新の就労や進路の情報を伝え、保護者の理解啓発へつなげることができたが、子ども達への発信が十分でない。 ・個別の教育支援計画を活用したり、懇談で子どもの将来の姿について話題にしたりして、保護者と話し合いを深めている。	・子ども達がきこえない・きこえにくい先輩方の活躍や就労、進路に興味、関心が持っている。 ・懇談で保護者ときこえない・きこえにくい人を取り巻く現状や子どもの将来の姿について話し合っている。	・子ども達が校内掲示やキャリア教育だよりを意識して見るように工夫し作成する。 ・キャリアパスポートの活用を促す。 ・学期末懇談に保護者と話し合う機会を設定し、話し合いの参考となる資料を提供する。
人権教育部 ・一人一人を大切にしているかを様々な場面で振り返り、自らの人権意識を絶えず見つめ直すことが望まれる。	・人権尊重の理念について理解し、子どもたちや教職員同士の人権を大切に環境づくりに努めている。	・自己チェックリスト(人権感覚を磨く)を年に2回実施する。 ・子どもの人権尊重を育む内容の授業公開や研修会を設定する。(人権教育参観日等) ・年度末に人権教育反省アンケートを実施する。		
3 あきらめない体力・気力	⑤ 生 活 に 位 置 づ け る	幼稚園部 ・運動の時間には、いろいろな動きに挑戦し、楽しみながら取り組んでいる。 ・苦手なことにもやってみようとする姿が見られるようになってきている。	・自分なりの目標を持って、いろいろな動きに挑戦している。	・運動の時間を楽しみながら多様な体の動きを経験できるように、引き続き計画的な運動の取組を進める。
		小学部 ・からだを動かすことが好きな児童が多いが、自分から意識して体力づくりを行うことは難しい児童もいる。	・体力づくりにおける自分のめあてを持って、意欲的に運動に取り組んでいる。	・自分のからだの使い方について動画等を活用し、客観的に捉え、体力づくりにおけるめあてを考える時間を設定する。 ・体力づくりの時間や体育、休憩時間等に、様々な動きを入れた運動に取り組んでいく。
		健康安全教育部 ・各学部で休憩時間に中庭で楽しみながらからだを動かしている姿がよく見られる。 ・休憩時間に学部を越えて幼児児童が一緒になって中庭で汗をかき楽しむ姿が見られている。 ・元気に過ごすためには、睡眠や食事など規則正しい生活習慣が大切であることを知っているが、実践については課題がある。	・遊びのバリエーションが増え、遊びの中でからだを動かす楽しさや、からだの使い方を知っている。 ・家庭や地域で進んでからだを動かそうとする。 ・健康に必要な生活習慣について知り、規則正しい生活を心がけようとする意識をもつ。	・教師が遊びの中でからだの使い方や動きの手本をみせたり、発達年齢にあった遊びの工夫や時間の確保をしていく。 ・家庭や各学部から、できる遊びやできるようになってほしい遊びについて吸い上げ、新しい遊びとして幼児児童に提案する。 ・生活習慣を振り返る機会(キャンペーン)を設定し、幼児児童の指導に生かしたり、家庭への啓発を図ったりする。 ・長期休業前に特集を組んだ通信等で家庭に呼びかける。
4 推進業務改善	① 化 成 業 務 の 効 率	・昨年度、時間外勤務時間が年間360時間を超えた教職員は3名だった。月45時間を超えるのは、年度初めや年度末に集中している。 ・年度初めに分掌表を一部新しくして、運営を行っている。	・一人一人の働き方の意識が高まり、時間外勤務時間が月45時間、年間360時間を超える教職員が解消する。 ・各学部や分掌で業務内容の精選・効率化が図られ、個々の教職員の業務量が平準化している。	・時間外勤務の削減に向けた取組(帰らぬDAYの設定、会議時間の短縮、協議内容の焦点化など)を継続する。 ・各学部や分掌の業務内容を再確認して、業務の分担に偏りがないよう人員配置を整え、企画部会等で定期的に調整する。 ・引き続き各取組のねらいを十分に共通理解して内容を検討し、企画運営を進め、業務のスリム化を図る。